

高覺院公

禮海

和田元吉事乃氏子

通退者乃お字山乃事

之カメソ由来一都人云

西行海行乃其子由

解乃其者乃曰人子

病ニ托シ余卿石住

此ハ乃下乃一書

上果乃曰人西行乃上

ニテ之自見乃西行乃何

ノ歟、方ノ所キハ根住乃由

山石田昔申乃乃人ノ道

退ハ乃乃事乃上ノ整乃

ニ大ニ苦乃乃有ニ乃一日





山石田若申及一人之進

退ハクも事業上ノ整頓

ニ大ニ善係ヲ有シヨリ一日

ヲ豫備仕ル位ニ何卒

至急ヨリ人ニ呼寄リテ

一考ニ由テ論旨列後令

定案係御カス在京時ニトモ

一方ニ善クニ有リテ概テ

或人論告スル方ハ其業

皆ノお考ニ由リテ其致

善ク為ルキ事ニ至リテ

年早キト有リテ其方

益扣テ有リテ一日

速ニ一人ノ身上ニ定

ルル根柢ニ希望仕ル

趣ニ有リテ其方



空しく働かざる在京師のトモ

一方に青負にありし松葉

或論生を多し方好し来し

皆しお考の由に言はれ

羊を多しと難く生を實に

年早くと取らば其の多し

は正に此の次有る一日に

速に一人の身上に定ん

ら多し松葉し希定仕に

強き事をしてたす

打白

一月の事なり

アア下

松子